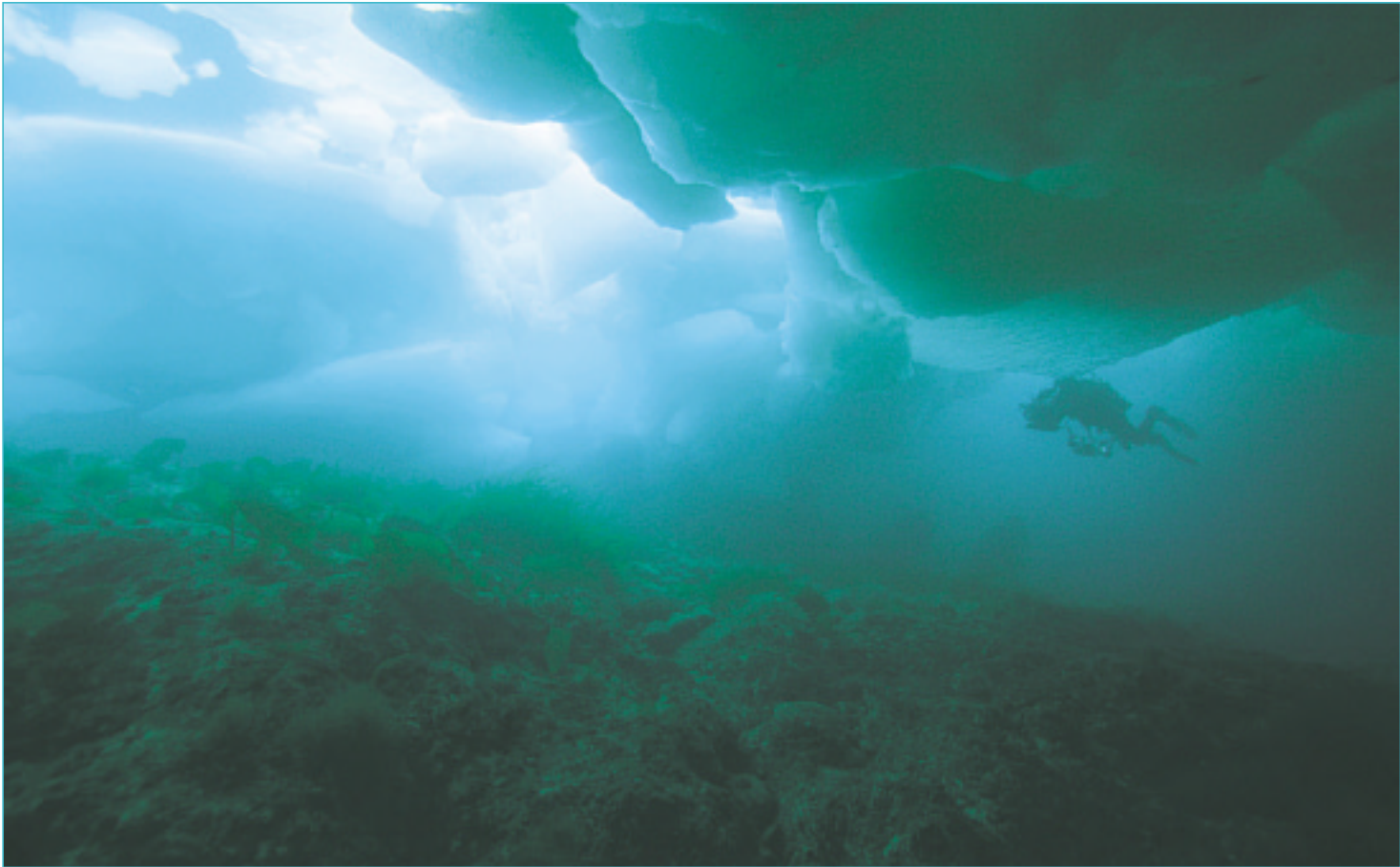


危ない 今、北の自然が

冬の使者・流水が、わたしたちに警告するものとは



流水の下は幻想の世界



アイスアルジ



ミンクジラとミズナギドリ



流水の南下とともに北海道の海にやってくるトド

今年三月、待ちに待った流水が羅臼に接岸した。氷塊の下を潜水できる四年越しのチャンスが巡ってきたのだ。

さっそく岸からエントリーを試みる。うっすら張った氷を割りながら、腰まで海に漬かる場所まで行つて海中へと沈んだ。マインス・八度の海水が直接触れるほおは、間もなく感覚がまひしていった。そんな水の冷たさを忘れさせるほど、幻想の世界が広がる海中の風景に圧倒された。

岸の近くは氷のトンネルのようで、くぐり抜けるように泳ぐ。大きい氷になると

深さ六メートルの海底まで届き、その造形とブルーの濃淡が独特の世界をつくり出す。

氷の表面に茶色い藻を見つけた。アイスアルジと呼ばれる植物性プランクトンだ。流水を主な生活の場にするこのケイソウ類は、小さなエビに似たオキアミの重要な餌となる。オキアミは魚の餌になるのももちろん、多くの海鳥やミンクジラなどの食を支える。海の生態系の基礎となる生物なのだ。

流水の海・
オホーツク
ここから始まる
命のドラマ

Takaki
Terasawa